

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究者の交流など学部として可能な国際交流を進める。	→ 「外国から招聘するゲストの人数」「研究科メンバーの国際学会出席など国際的な研究活動の頻度」	C	C	/	/	/
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) <span style="color: orange;">いづれかにチェックしてください。</span> →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 明示している <input checked="" type="radio"/> 明示していない
★ 小項目 7.0.1	研究者の交流など学部として可能な国際交流を進める。  (説明) 方針は明示していないが、実際には各々の研究室に任された交流がなされている。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。 (説明) 昨年度に引き続き、アメリカ・アラバマ大学教育学部教授Constace Kamiiny 博士による特別講義と研究会を開催した。本学キャンパスで開催された乳幼児教育学会ではニュージーランドからの招聘したJudith Duncan博士の教育講演は多数の大学院生が参加する機会となった。また、学会の大会運営に大学院生が関わることができた。以上のほか、教員レベルの国際交流がみられた。
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	/	/	/	-	-	-		
指標2	国際交流協定締結国数		国	/	/	/	-	-	-		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	/	/	/	-	-	/	累計数	
		外国人留学生	正規	人	/	/	/	2	1	0	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	/	/	/	33.3	11.1	0	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	/	/	/	0	0	/	
	その他(セミナー等による受け入れ)	人	/	/	/	-	-	/			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	/	/	/	-	-	/	累計数	
		人数	長期	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	/	/	/	0	0	/	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	/	/	/	0	0	/	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	/	/	/	0	0	/	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	/	/	/	-	-	/	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

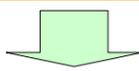
(その他の指標)  
協定校と相互交流数(学生・教員)  
国別国際交流協定締結先機関数  
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目 7.0.1		
★ 小項目 7.0.2		
その他		

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目 7.0.1		
★ 小項目 7.0.2		
その他		

◎自由記述

《点検・評価》《次年度に向けた方策》	
★ その他 (自由記述)	

### Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○現状では、研究者交流が当面の国際交流として有効な手段だと思われます。その点、海外からの招へい研究者の特別講義などや国際学会開催での院生の関与など国際化の努力が進められており順調な進展が見られます。今年度の評価をBとしてそれを励みに今後の努力を進めてはどうでしょうか。

【学内委員】

○7.0.1の現状の説明は具体性に欠けています。具体性のある記述に改めることが期待されます。

○国際交流の方針は「研究者の交流など学部として可能な国際交流を進める」とありますが、教育学研究科としての独自性が見えないと思われ。

○早急な方針設定が望まれます。

○小項目7.0.2は、評価指標データなども利用し数値で示せるものは示すなど、より具体的な記述が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・現時点での目標は抽象的です。具体的な目標を設定することが期待されます。

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》7.0.2に下記のように追記。

《評価指標データ》に明らかのように、外国人留学生が1名(2010年度)にとどまっているなど、国際交流は低調である。

★ 改善すべき事項7.0.2に下記のように追記。  
国際交流の方針作成が必要である。

改善方策7.0.2に下記のように追記。  
国際交流の方針について検討をはじめ。